

景況レポート

(10月分・情報連絡員60名)

全体景況DI値がわずかに上向く

【概況(全体)】

10月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが5.0%(前回調査5.0%)、「悪化」が68.3%(同71.7%)で、業界全体のDI値は-63.3となり、前月調査との比較では3.4ポイント上回った。

全国及び東北・北海道ブロックにおいても本県と同様にDI値が前月を上回った。GoToキャンペーン等の景気刺激策の効果もあり上向き傾向となっているが、新型コロナウイルスの影響が長引くにつれ、人員削減や給料カットを検討する企業も見受けられ、先行きを不安視する声が多い。

【業界別の状況】

新型コロナウイルスの影響により、製造業では依然として受注が回復していない業種が多くみられ、前年同月より好転したとの回答は全く無かった。

一方、非製造業では、Go To キャンペーン等により、回復した業種も一部みられたが、依然として厳しい業種が多く、3ヶ月連続で同じDI値となった。

これにより、全体景況DI値は前月をわずかに上回る結果となった。

<全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-63.3	-53.9	-51.4
製 造 業	-83.3	-60.8	-59.3
非製造業	-50.0	-48.6	-47.2

<景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業							
非製造業							

【凡例】



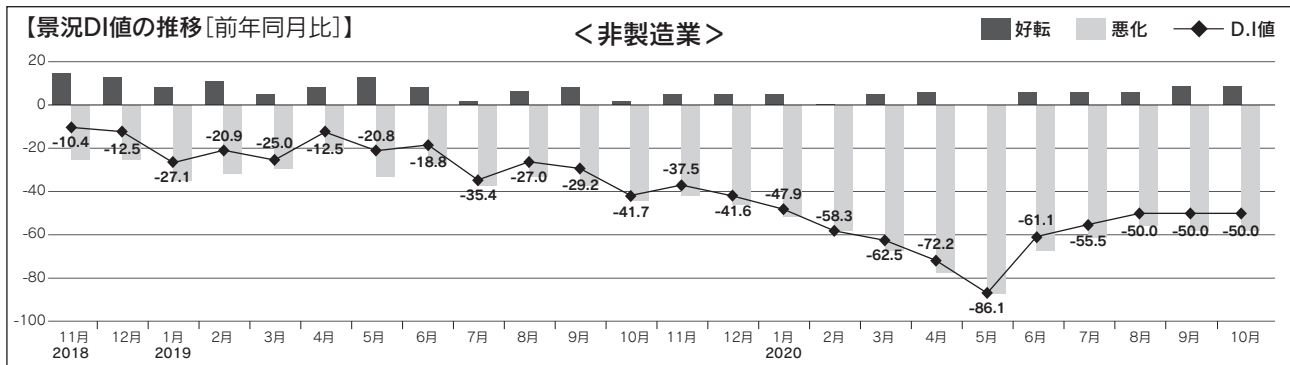
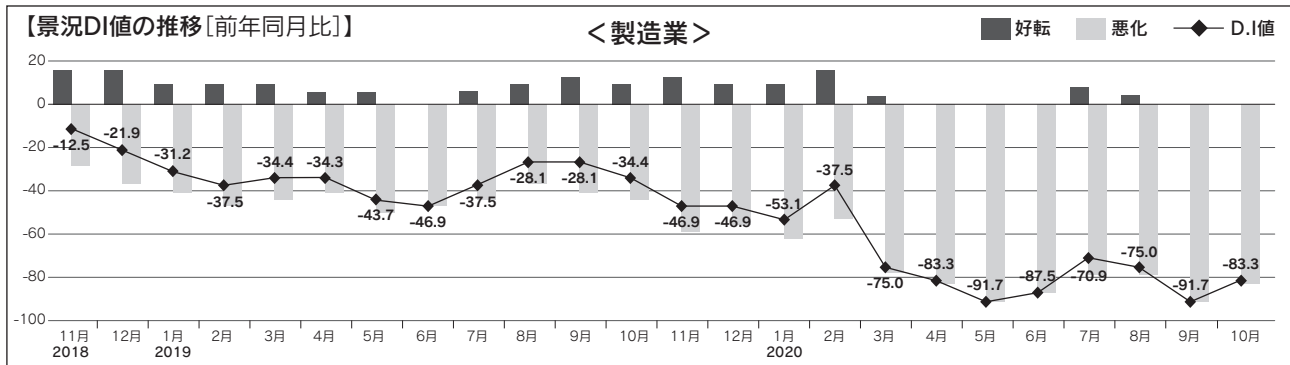
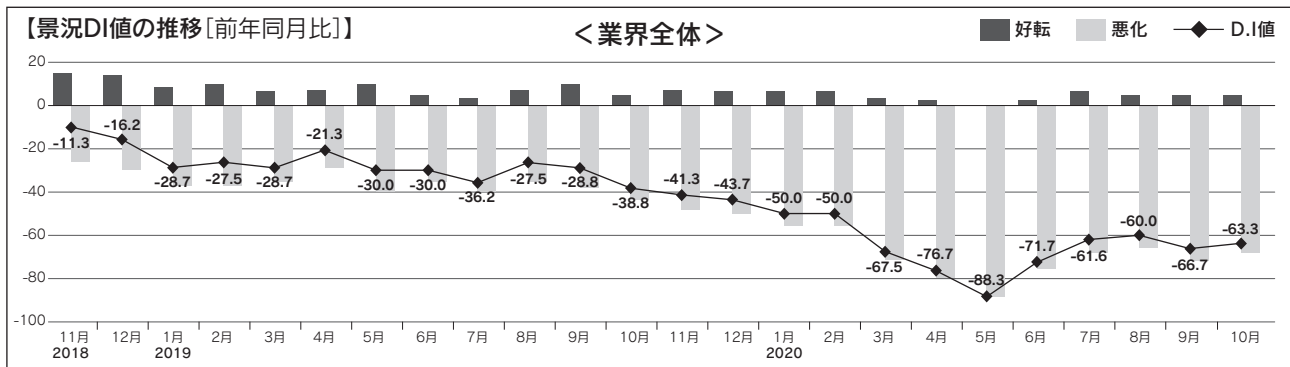
【天気図の見方】
前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ~製造業~

(回答数：24名 回答率：100%)

食料品 (豆腐)	Go To トラベルで宿泊施設の動きが出てきたが、宴会が未だに滞っており、売上の回復には至らず、前年同月比90%程度で推移している。
食料品 (菓子)	Go To トラベル効果などがあり、幾分お土産品の売上に回復の兆しが見られた。
食料品 (精穀・製粉)	組合員間でも、製品・販路によって景況感に差が出ている。包装もち等の流通向けは落ち込みが少ないが、製造業者向けはまだ回復に至っていない。
繊維工業 (繊維)	新型コロナウイルスの影響でアパレルメーカーの売上が激減していることに伴い、縫製業も苦戦を強いられている。一時、経済産業省から依頼された医療用ガウンを受注することによって、仕事の減少をカバーしていたが、ここにきて息切れ状態となっている。(中央地区)
木材・木製品 (素材生産)	新型コロナウイルスの影響により、合板材工場の生産調整が進んだことにより原木の在庫が減少している。原木の需要が回復しており、11月からほぼ通常の供給体制に戻る見込みである。
木材・木製品 (外材)	秋需要が始まり価格上昇の機運が見られ、また、公共事業向け資材の出荷も始まったが、長雨や新型コロナウイルスの影響もあり、未だに木材需要の不透明感が続いている。こうした中、国産針葉樹合板は3月下旬以降の減産が続いており、荷動きも停滞感が続いている。スギ原木については秋需要により価格上昇機運が見られるものの需要の前年度減に変わりはなく、また、原木価格を下支えしてきた合板用原木についても減産が続いており、引き続き厳しい展開が予想されている。
窯業・土石製品 (生コンクリート)	出荷数量は前年同月比92.4%となり、4~10月の累計では96.6%となった。県南地区の落ち込みの影響により前年を下回った。累計では鹿角地区は持ち直したものの、依然として県南、大館及び本荘由利地区の落ち込みが大きい。来年度は県単独事業が縮減となることから、今後も厳しい状況が続くとみられる。
鉄鋼・金属 (機械金属)	新型コロナウイルス感染拡大の影響は依然として続いており、工場の稼働率も前月同様に低いままの状況である。先行きが不透明で資金繰りが悪化しており、非常に厳しい年末となる見通しである。
その他の製造業 (漆器)	観光シーズンに合わせたGo To トラベル事業の開始により、地域共通クーポン券を使用する客もおり、伝統工芸館の売上はここ数年の同月よりも上回った。しかし、他県への出張販売・催事に関しては、集客人数、販売客数、販売額とも回復していない。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：36名 回答率：100%)

卸売業 (青果)	前年同月比111.0%の売上で推移した。10月は比較的穏やかな天候が続き、全国的な台風の被害等もほとんど見られなかったため、県内産の野菜並びに果物の入荷もおおむね順調で、商品の動きも活発に行われた。しかし、野菜・果物とも比較的高値で推移したため、売上高は昨年を11ポイント程上回ったものの、利益の大きな上乗せはできなかった。
小売業 (自動車)	10月の新車販売台数は、登録自動車1,916台(前年同月比132.4%)、軽自動車1,869台(同127.5%)、合計3,785台(同129.9%)であった。
小売業 (石油)	ガソリンの小売価格は1ℓあたり129円20銭で前月比80銭値を下げた。軽油は112円80銭で前月比30銭、配達灯油18ℓは1,391円で前月比12円それぞれ値を下げた。
商店街	新型コロナウイルスの影響により、自宅での食事が増えたため、食料品販売は前年同月比で増加した。その他、前年同月比で家電販売はやや増加、身の回り品・生花販売・酒類販売は減少となり、全体としては悪化した。(秋田市) Go To キャンペーンで一部持ち直したが、小売・サービス業は先行きが暗い。(鹿角市)
サービス業 (旅館)	Go To ツラベルや各種地域クーポン等で観光需要は上振れしている。また、台風によるキャンセル等もなく、安定して忙しい月となった。
サービス業 (タクシー)	Go To キャンペーンの効果によるものなのか、地域によっては県外客の入り込みが増えつつある。また、県の助成金で実施している「宿泊者優待タクシー券事業」は、県旅館ホテル生活衛生同業組合の全面的な協力のもと順調に推移しているが、飲食店や宴会などが回復していないため、業界の回復も7割台に留まっている。全県の運行回数(対前年同月比)は76.8%、運送収入(同)は72.1%となった。
建設業 (一般土木建築)	公共工事では土木工事の発注が少なく、建築では大型物件が少ない。しかし、民間住宅リフォームが多く、職人不足になっている。
運輸業 (トラック)	9月から10月にかけて、軽油単価が少し下がった。米の出荷は昨年よりも少なく、前月に比べて荷動きは良くない。関東・関西圏にトラックを走らせても帰りの荷物が少なく、苦労している状況である。原木も動きが悪く、電子部品も全く動いていない。(中央地区)